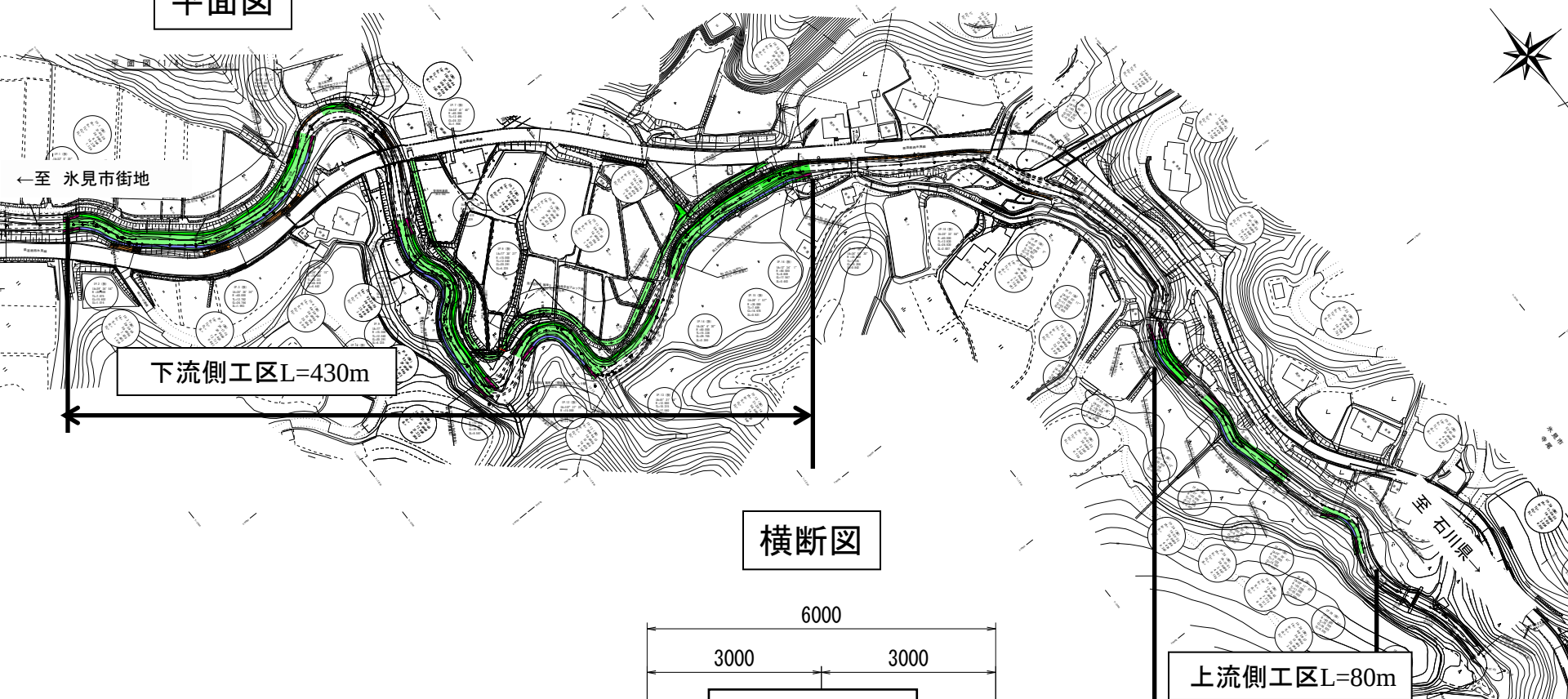
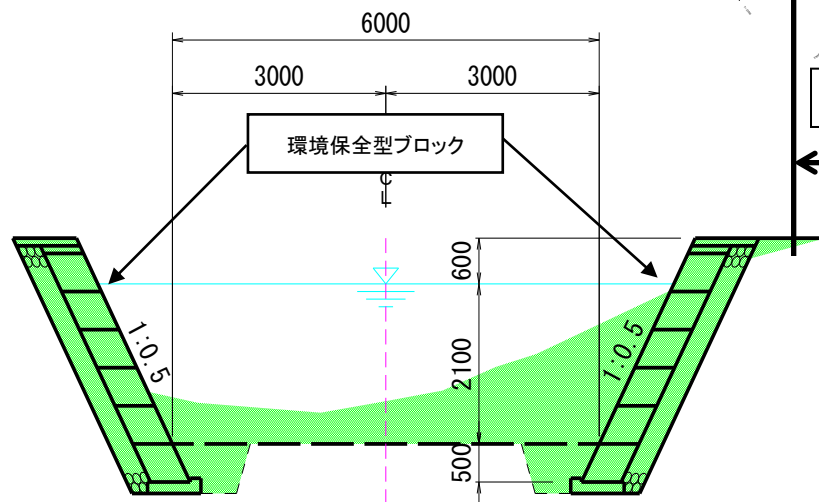


余川川 事業の概要

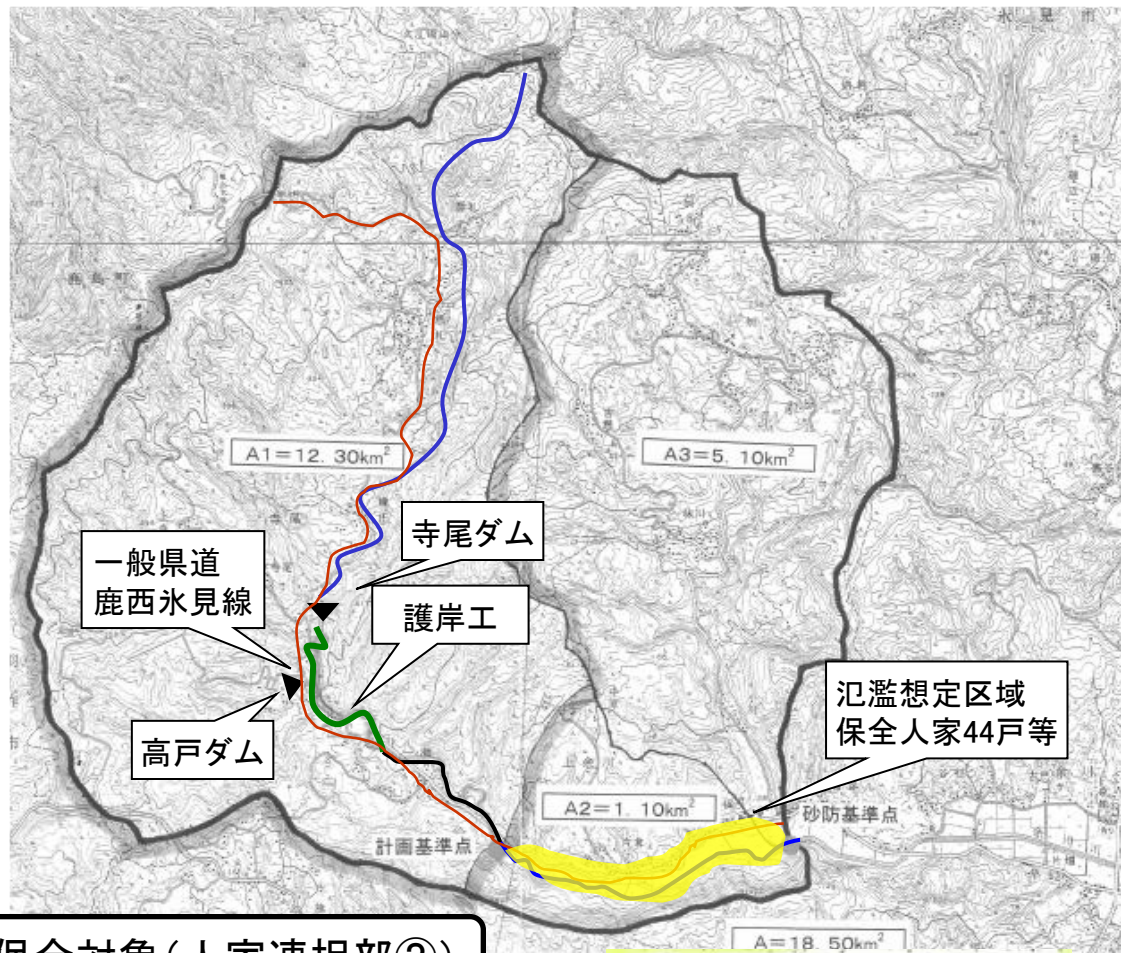
平面図



横断図



余川川 事業の必要性



溪床の荒廃状況



保全対象(人家連担部①)

余川川

洪水氾濫想定区域

保全対象(人家連担部②)



←余川川

洪水氾濫想定区域

郵便局

八日午前、氷見市稲積で余川川右岸の堤防が決壊。近くの製材業、沢井敏夫さん(65)方住宅と隣接の製材工場裏側へ濁流が迫った。氷見消防署へ通報が迫った。氷見北部分団員らが腰に命綱をつけ、懸命に土のう、蛇かごを積み上げた。水位は午後から下がり始めた。

余川川右岸 堤防決壊 氷見

昭和60年7月9日
北日本新聞

県内 梅雨豪雨で被害続出



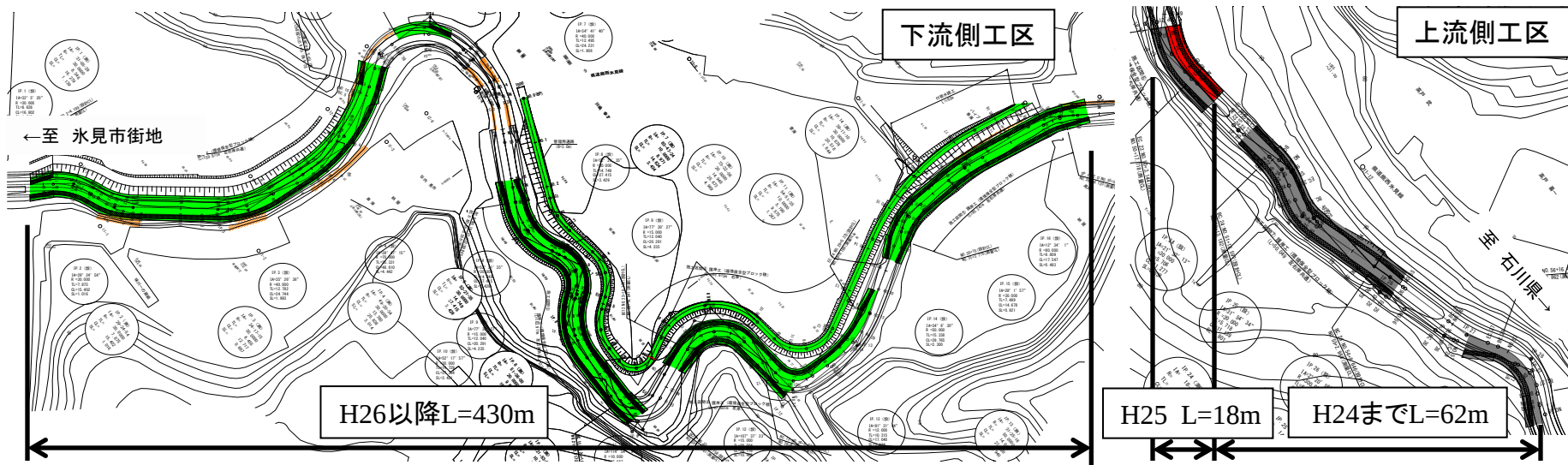
死者1、交通網寸断
女良小氷見など4校臨時休校

上越

余川川 社会経済情勢の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
保全対象人家戸数	戸	44 (H21)	44 (H25)	変化なし
保全対象公益施設	棟	6 (H21)	6 (H25)	変化なし (公民館3 消防防災センター、駐在所、郵便局)
保全対象道路	m	4,890 (H21)	4,890 (H25)	変化なし (県道鹿西氷見線、市道等)
氷見市人口	人	54,276 (H21)	52,053 (H25)	減少
費用便益比(B/C)	—	1.03 (H21)	1.02 (H25)	1.0以上

余川川 進捗状況



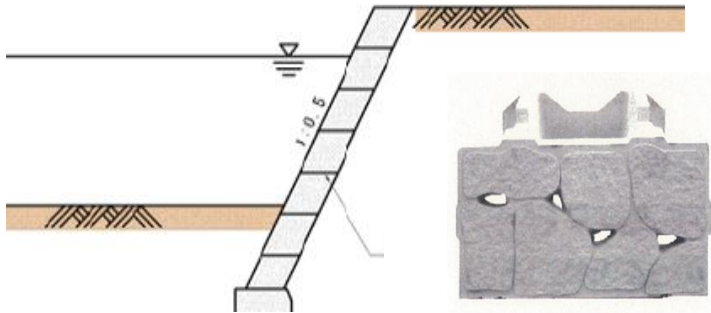
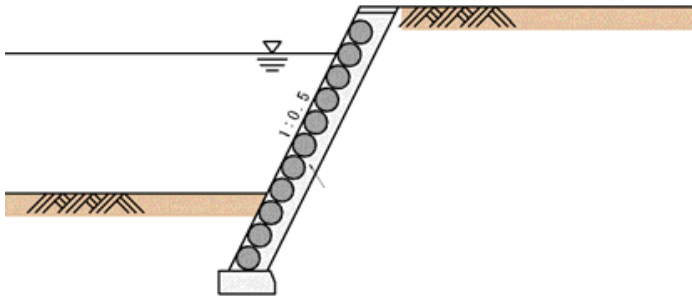
凡 例

- H24まで
- H25
- H26以降

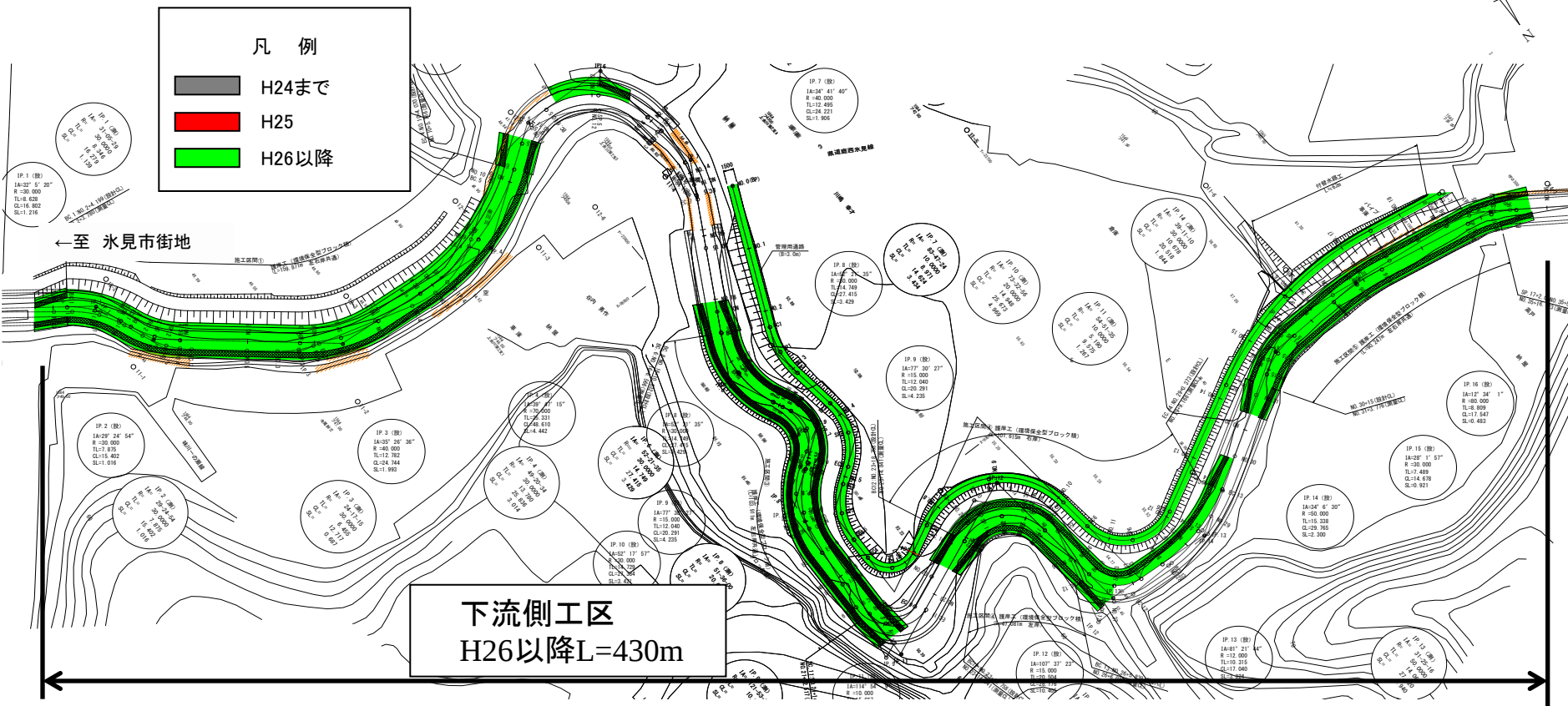
主な工種 (全体事業量)	護岸工 510m		H25までの進捗率	
	H24まで	H25	事業量 ベース	事業費 ベース
用地補償 (4,070㎡)			58.2%	58.3%
護岸工 (510m)			15.7%	27.1%
計				28.6%

余川川 コスト縮減や代替案立案等の可能性

- ・溪岸が侵食されている箇所や、水を流すために必要な断面が足りない等、護岸設置が必要な箇所を抽出して整備（岩が出ている等、侵食の恐れがない箇所は整備を行わない）
- ・護岸の構造形式を比較
- ・経済的となる環境保全ブロックを採用し、コスト縮減を図っている。

	環境保全型ブロック護岸	練石積護岸
特徴	コンクリートブロック（植物の生長、昆虫等の生息場所を提供するため、多孔質となっているもの）を積み上げた構造	コンクリートを利用して自然石を積み上げた構造
断面図		
経済比較	1. 0	1. 2 (採用案を1. 0とした場合の比率)

余川川 今後の事業の見通し



現計画で事業継続 (完成予定 平成29年度)